

CSR 推進

SDGs への貢献

2023年7月31日に埼玉県より「埼玉県SDGsパートナー」として登録されました。埼玉県SDGsパートナー登録制度とは、SDGsに自ら取り組むとともに、その実施内容を公表する県内企業・団体等を県が登録する制度です。本制度は、申請様式を活用し、県内企業等が自ら行う活動とSDGsとの関連性を明確にすることで、県内企業等のSDGs達成に向けた具体的な取り組みを促進すること、また、SDGsの具体的な取り組みにより、企業等の価値向上及び競争力の強化を図るとともに、県が進める「埼玉県版SDGs」を共に推進することを目的としています。

私たち高田製薬は、以下に掲載した取り組み方針のもと、埼玉県SDGsパートナーとして、SDGsの達成に一層力を入れてまいります。



関連リンク【埼玉県SDGsパートナー】https://www.pref.saitama.lg.jp/a0102/sdgs/sdgs_partner.html

SDGs 達成に向けた高田製薬の取り組み方針

当社は「飲みやすく 使いやすい くすり」を提供することで、患者さんや医療関係者に貢献するとともに、企業倫理と透明性の維持を図り、地域社会の発展に寄与し、地球環境を守ることで、SDGsの達成に貢献していきます。

SDGs 達成に向けた取り組み状況

当社では、持続可能な社会の実現に向けて、環境・社会・経済の3つの分野でSDGs達成に向けた具体的な目標を設定し、計画的に取り組んでいます。

環境分野

温室効果ガス排出量削減において、2030年に向けた目標に対して順調な進捗を示しています。2023年度のCO₂発生量は8,233t-CO₂/年、2021年度実績から43%の大幅な削減を実現しました。また、温室効果ガス排出量削減についても、取り組み開始3年後の中間目標11,660t-CO₂/年に対して着実に進展しています。

社会分野

従業員の年次有給休暇取得率向上と社会貢献活動の一環として寄贈活動を積極的に推進しています。年次有給休暇取得率は2023年度実績74.2%を達成し、2030年の目標80%以上に向けて着実に改善しています。寄贈活動については、シールや折り紙の寄贈、フードドライブの開催など、多様な社会貢献活動を継続的に実施しています。

経済分野

環境に配慮した原材料を用いた製品開発を推進しており、2030年に向けた目標2件の達成に向けて取り組みを進めています。

これらの取り組みを通じて、企業活動と社会課題解決の両立を図り、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

	SDGs達成に向けた重点的な取り組み	指標	進捗状況	該当ページ
環境	全事業所・営業所にて発生する温室効果ガス排出量(Scope1、Scope2)について削減を図る。	<2030年に向けた指標> 8,308t-CO ₂ /年 (2021年比42%削減)	<1年経過時> 2023年度実績: 8,233t-CO ₂ /年 (2021年度実績比43%削減)	P26-29
	<(現状値)2021年の数値> 温室効果ガス排出量:14,324t-CO ₂ /年 (Scope1、Scope2合算)	<取組開始3年後に向けた指標> 11,660t-CO ₂ /年 (2021年比18.6%削減)		
社会	従業員の年次有給休暇取得率向上を図るとともに、社会貢献活動の一環として寄贈活動を積極的に実施する。	<2030年に向けた指標> 80%以上の維持 3団体(5回/年)	<1年経過時> ①2023年度実績: 74.2% ②3団体への寄付、寄贈 ・自動販売機の売上一部寄付 ・シール、折り紙の寄贈 ・フードドライブ開催	P38、P44-45
	<(現状値)2022年数値> 1有給休暇平均取得率:73.6%(取得日数/付与日数) 2寄贈活動:0団体 (現状は実施なし)	<取組開始3年後に向けた指標> 80% 2団体(3回/年)		
経済	環境に配慮した原材料を用いた製品開発を推進する。	<2030年に向けた指標> 2件(累計)	<1年経過時> 0件 (4件開発中)	—
	<(現状値)2022年の数値> 製品化件数:0件(累計)	<取組開始3年後に向けた指標> 1件(累計)		

CSR 重要課題 (マテリアリティ)



高田製薬の経営理念には、人々の健康に貢献することで、幸福と共栄を目指すという願いが明記されています。これらは、当社事業の特徴や事業活動の方針となり、従業員一人ひとりの思い、高田製薬の思いに繋がっています。また、事業活動に対するステークホルダーの印象や評価から、より広い社会的観点を持った事業活動への意識が芽生えています。高田製薬では、これらを2020年にCSRビジョンに盛り込み、事業の関連性と社会への貢献度の観点から、2022年に高田製薬CSR重要課題(マテリアリティ)を設定しました。

設定した重要課題(マテリアリティ)については、関連する課題やリスクを洗い出し、具体的な取り組みを推進しています。また、ステークホルダーからの要請や社会の変化などを踏まえ、定期的に課題設定の妥当性などを確認し、必要な場合には更新していく考えです。

特定プロセスの流れ

経営理念を起点とし、私たちは研究開発企業として高い品質の医薬品づくりに励み、健康長寿への貢献を製品と人の両面から実現し、社会的価値創出を目指します。

ステークホルダーの声では、顧客である医療関係者から「飲みやすさを追求している製品が、多くの保護者や子供からも評価されている」という声や、「味がさらっとして、分包機に付かないので助かる」との評価をいただいています。また、工場見学を通じて「品質追求の姿勢が理解できた」「GMPの取り組みによる信頼性向上の努力をしている」といった評価も収集しています。

強み・弱み×機会・脅威の分析では、中期経営計画「TAKATA2020-2022」に基づき、小児の「TAKATA」としての存在感を高め、社会的認知度の向上を図るとともに、期待に応える「技術力」を追求し、競争力ある「低コスト構造」への転換を図っています。社員一人ひとりが課題を探索し、「課題解決」に向けて行動します。

これらすべての要素を統合し、「高田製薬の想い(TAGチーム・各部署の取り組み)」として具現化し、最終的に6つのCSR重要課題を特定しました。

